

第11回 いばらき診療所 Annual meeting 2025

「終の棲家と在宅医療・訪問看護」

～失われゆく生死における地域文化と現代の看取りの風景～

平素は「いばらき診療所 Annual Meeting」にご参加頂きまして有り難うございます。2020年からコロナ渦の影響で開催することを見合わせておりましたが、感染はそれなりの落ち着きを見せて参りましたので、今年から5年ぶりに再度開催したいと思います。今までも診療所という医療機関主催の会ですが、病気の話ではなく、どうしたら私たちが病気となり、残された時間が限られた場合、静かに過ごせる智慧を感じて頂けるような講演会を心がけて参りました。本年は特に、以前から私たち医療職が危惧していたことではありますが、コロナ渦を経験して特に強く感じたことは、お一人お一人を大切にしながら、生活の中で看取りを行ってきた、地域文化が簡素化されすぎ、従来私たちの生きて参りました、地域の文化や風習、しきたり、決まりごとが失われ、それと同時に丁寧な医療・介護そして人を看取ることが、形式的で商業的な儀式と変遷して来てしまったように思います。コロナでは面会も許されず孤独になくなる方が、ご家族に顔を見せることもなく茶毘に付されることがあり、それはとても悲しいことでありました。幸いなことにコロナに関してはそのようなものを見ることは今は無くなりました。しかしながら、一度失われた周囲者が一人一人手を差し伸べた厚みのある在宅での医療・介護や看取りや延べ送りは簡単には戻っていないのではないのでしょうか。過去が良かったどうかは私たちにも解りません。未来の人の生き死にがどのように変化していくのかももちろんわかりません。

文化と言うと、特に傑出した人々が守ってきたものを皆様は想起されるかもしれませんが、我々一般人が、地域で受け継いで来た考え方、風習やしきたり、決まり事も、実は大変重要な文化です。名も知れぬ職人が生み出す工芸品(民芸品)などは良い例です。今この時代を生きるものとして、受け継ぎ残すことも大切なことではないかと考えます。

今回のいばらき診療所 Annual Meetingでは、様々な葛藤の中においてもご自宅で行われた、医療・介護そして看取りの艶やかな風景をご紹介するとともに、民俗学の分野で多大な業績を上げられた板橋春夫先生をお迎えし、つい最近まで当然のように見られていた人の死の有り様などに付きご講演をいただくことといたしました。民俗学は私たちが何気なくしている毎日の営みの博物学のようなものです。人の死の判断は、現代の医学でもまだ議論の多いところですが、過去には、村の長老が何かの変化を見極め周囲の方々が受容していた時代もあったにお聞きいたしております。その後、医者が、遠くから往診委にきて、診断者作成をしたのでしょうか。歴史の中で人の死をどのように判断してきたかなどについてもお伺いできるのではないかと思います。また、ご出席の皆様の御幼少の時期などの懐かしいお話もお聞きできるのではないかと考えております。

過去から蓄積されたものの中に、私たち日本人が生活の中で生死を受容するための智慧、風習や時に迷信などがあり、本来の人としての優しさや祈りが込められているのでなかったのではないかと思います。板橋先生ご著書である3部作として叢書のうちの民俗学 1. 出産 2. 長寿 3. 生死を拝読いたしまして、特に、生死について少し時間を割いて民俗学的な人の生死に関するお話をお聞かせいただくことが出来るのではないかと考えております。

日時： 令和7年2月1日(土) 13:00～16:00

● 会場： 水戸プラザホテル2階(茨城県水戸市千波町2078-1 TEL.029-305-8111)

1. いばらき診療所からご挨拶 「いばらき会の目指すもの」 13:00～13:20
いばらき会 理事長 照沼 秀也

2. 症例発表 13:20～14:05
「現代の在宅看取りにおける風景」

3. 特別講演会 14:10～16:00
「生老病死の世界」

神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科非常勤講師、放送大学客員教授

板橋 春夫 先生

医療法人社団 いばらき会

講演会 (13:00~16:00)

1. 「いばらき会の目指すもの」 (13:00~13:20)

いばらき会 理事長 照沼 秀也

2. 事例提示 (13:45~14:30)

現代の在宅看取りにおける風景

2.1 日立南部地区訪問看護ステーション

「未告知末期がん患者様のご家族の葛藤と在宅での看取り(仮)」

2.2 いばらき診療所みと訪問看護ステーション

「在宅での介護から家族の絆を取り戻した一例(仮)」

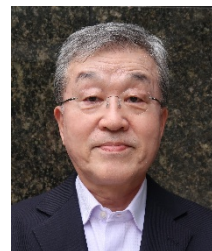
2.3 訪問看護ステーションこづる

「在宅で迷いながらも高齢の親を看取った家族の思い(仮)」

3. 特別講演 (14:30~16:00)

「生老病死の世界」

神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科非常勤講師、放送大学客員教授



板橋 春夫 先生

生老病死(しょうろうびょうし)は、「四苦八苦」と言ったときの「四苦」のことです。生まれる苦しみ、老いる苦しみ、病気になる苦しみ、そして死んでいく苦しみです。講演では看取りの文化に力点を置きながら話を進めていく予定です。しかし、死を語るには当然のことですが、生を語っておく必要があります。生と死は深く関連しているのです。

■ 特別講師プロフィール

1954年群馬県生まれ。國學院大学卒業。伊勢崎市職員、新潟県立歴史博物館参事、日本工業大学建築学部教授を経て、現在、神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科非常勤講師、放送大学客員教授。博士(文学)、博士(歴史民俗資料学)

■ 著書

『誕生と死の民俗学』(吉川弘文館)、『叢書いのちの民俗学1 出産』『叢書いのちの民俗学2 長寿』『叢書いのちの民俗学3 生死』(社会評論社)、『産屋の民俗』(岩田書院)、編著に『日本人の一生~通過儀礼の民俗学~』(八千代出版)など多数。

- 申込方法:当日の準備の都合がございますので、お名前、連絡先、所属機関を申込用紙にご記入の上、1月末までに、電話、FAX、emailにてお申し込みください。
- 申込先:いばらき診療所こづる IBC annual meeting 事務局 早乙女
〒311-3107 東茨城郡茨城町小鶴 127-1 電話:029-291-0055 FAX:029-291-1456

email: sootome@ibc.or.jp

参加費用:無料

いばらき診療所 Annual Meeting 2025 出席 申込書

1月末までにご連絡いただくと幸いです

●申込先:

いばらき診療所こづる

IBC annual meeting 事務局 早乙女

〒311-3107 東茨城郡茨城町小鶴 127-1

電話:029-291-0055

FAX:029-291-1456

email: sootome@ibc.or.jp

御所属	御芳名	連絡先